

第2回会長の時間 宇部ロータークラブ誕生につて H28. 7. 14

宇部ロータークラブ創立60周年の記念式典、記念祝賀会が会員皆様のご協力により、無事終了しました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、本日は、先週ご案内しましたように、宇部ロータークラブの創立までの歴史について話をしたいと思います。

宇部ロータークラブの設立以前の経緯ですが、今から80年前1935年(昭和10年)頃、大阪RC会長で大阪商船社長の村田省蔵氏、そして神戸商高の田崎慎治先生などから当時宇部窒素工業常務の国吉省三氏と宇部興産社長の俵田明氏に宇部にもロータークラブをつくったらどうかという話がありました。

将来、国際的に発展しようとするならば是非ロータークラブを設立するのが良いのではとかなり強力な誘いでした。当時は、まだロータークラブについての認識も充分でないし果たして相当数の会員が集まるかどうかもおぼつかなかったとあり、その為に一応、時期が早いということで折角の好意をお断りしたとあります。この頃の日本の状況は本格的に戦争の時代に入って行き、ロータークラブにも厳しい時代でした。1936年(昭和11年)には2・26事件、1937年(昭和12年)には日中戦争が始まりました。そして日本最初に創立した東京ロータークラブが解散、続いて他のロータークラブも次々と解散していきましたが、その中で、火曜クラブ・水曜クラブと名前を変えて続けるクラブもありました。太平洋戦争が1945年(昭和20年)8月15日終戦、これらの状況を考えれば当時の宇部ロータークラブの見送りは当然であったのかも知れません。

1955年(昭和30年)頃になって山口ロータークラブ副会長の菅博太郎(山口県信用保証協会専務理事)と福岡ロータークラブの松田昌平氏(松田建設事務所)が、たびたび宇部に来られて宇部興産の幹部や新光産業の古谷博美氏、小野田セメントの森清治氏、宇部ソーダの安近勲治氏、及び国吉省三氏と話合いが重ねられて発足の段取りが整えられつつありました。当時は県下においても下関、徳山、山口にはすでにロータークラブが結成されていたので発展途上にある宇部としても聞き捨てにする訳にも行かないので翌年1956年(昭和31年)の7月10日に旧宇部商工会議所に於いて、俵田明会長、中安閑一副会長及び国吉省三幹事で宇部ロータークラブの創立総会が開催され37名のチャーターメンバーに2名の名誉会員を加え39名で発足しました。会則によりクラブの地域を「宇部市とその周辺」として、小野田市が含まれていました。例会日はその時から毎週木曜日、入会金は1万円、会費は2万円と決定されました。また、例会場を商工会議所の三階会議室に決定

しましたが何の設備もなく必要な備品も調達しなければならぬのでその費用の40万円は予め打合せしておいた宇部興産、宇部ソーダ、小野田セメント、古谷磁業から特別寄付して頂いたそうです。

これ以来、7月10日が宇部ロータークラブの創立記念日となっております。7月10日から定例の木曜日に会合を開催し、7月には2回、8月には5回、9月には4回の例会を行いました。国際ローターに申請して3ヶ月たっても承認が得られませんでした。当時のこの地区（64地区）の黒川ガバナーに質問をしましたが、加入遅れた理由は、2つありました。1つは、宇部興産の産業各部門から入会している会員がいずれも興産の役員であり、当時産業各部門が独立したものと認められなかった。言い換えれば、興産の一事業から多数の会員が異なった職業分類を与えられていた。2つめは、石炭鉱業の中での小分類が多数あって全体の分類が偏りバランスを欠いているという点でした。こういった宇部の特殊事情の釈明書を黒川ガバナーから国際ローターに送付して頂いて10月24日にやっと加盟が国際ローターの理事会で認められたということです。ちょうどこの10月24日は、長崎において開催された第64区年次地区大会の最終日で、大会の最後に黒川ガバナーが挨拶せられる直前に本部より承認の電報が到着し、黒川ガバナーの挨拶の最後の言葉の中にそのことを会場に報告され、満場の祝福の拍手を受けたそうです。大会に出席した会員の喜びはもちろん、国吉幹事はこのことをすぐに宇部の俵田会長に電報されたそうです。

60年間の宇部ロータークラブの歴史のもとには、たくさんの方々のご努力があったことを私たちは忘れてはならないと思いました。

今日は、宇部ロータークラブ誕生についてのお話をしました。